

クリニック（講習会）における新型コロナウイルス感染症予防マニュアル

2020年10月
一般社団法人日本ゴールボール協会
大会運営部

このマニュアルは、一般社団法人日本ゴールボール協会が主催するオフィシャルクリニックならびにレフェリークリニックにおいて、新型コロナウイルス感染症の予防を目的に、日本スポーツ協会が定める「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」に則り、ゴールボール競技の特性に合わせて定めたものです。

1. 入館時

ア 「利用前2週間における発熱等の確認事項」のチェック。

イ 検温の実施。

ウ アルコール消毒の実施。

エ 体育館指定の名簿等の提出。

※当協会指定の来場者情報用紙（全員の氏名・住所等の情報）を作成し1ヶ月間保管する。

2. 利用中

ア 参加者全員がマスクを持参し、常時着用する（※競技中については別途定める）。

イ 常に喚起を行い、利用者同士のソーシャルディスタンスを確保する。

ウ 手洗い・手指消毒の遂行。

エ 食事中の会話は控え、ソーシャルディスタンスを確保する。

オ ゴミの持ち帰り。

カ 体育館が定めるガイドライン記載事項の遵守。

3. 競技中

ア 選手について

試合前後にアルコールによる手指消毒を実施。

プレー中はマスクの着用は任意とする（プレー中以外はマスクを着用）。

イ ベンチのコーチ・控え選手

試合前後にアルコールによる手指消毒を実施。

全員マスクを着用。

ウ 受講者

試合前後にアルコールによる手指消毒を実施。

全員マスクを着用。

エ スタッフ

試合前後にアルコールによる手指消毒を実施。

全員マスクを着用。

オ 審判員

試合前後にアルコールによる手指消毒を実施。

レフェリーは、マスクの代わりにフェイスシールドを装着し、ゴム手袋を着用。

飛沫防止のため、手で操作する電子ホイッスルを使用する。

競技補助員の内、ゴールジャッジとアイパッチはマスクとゴム手袋を着用。その他の競技補助員はマスクを着用。

4. 使用後

- ア 体育館から借用した備品（机・椅子・競技器具）のアルコール消毒を実施。
- イ 持参した備品のアルコール消毒を実施。
- ウ 体育館フロアのアルコール消毒を実施。
- エ 退館時に検温を実施。

5. 参加者に発熱があった場合

- ア 利用開始前の場合は、その個人の利用を中止し、その後2週間の経過確認と必要に応じて保健所との連絡調整を行う。
- イ 利用開始後の場合は、その個人との濃厚接触者を特定し、その後2週間の経過確認と必要に応じて保健所との連絡調整を行う。

6. 参加者が新型コロナウイルスを発症した場合

利用後2週間以内に、参加者が新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、体育館管理者に対して速やかに報告を行う。

7. 備考

感染予防に関する下記の備品については、主催者側で準備する。

検温器具

アルコール

ペーパータオル

フェイスシールド

使い捨てゴム手袋

以上